

対内直接投資による工場立地が近隣住民の社会規範に与える 影響

—サブサハラ・アフリカを対象とした Staggered DiD 分析—

要旨

本研究では、アフリカ・サブサハラ地域における対内直接投資による工場の進出により、近隣住民の社会規範が変容したのかを実証分析した。分析には、アフリカに住む人々の価値観を定量化したデータと、世界の対外投資のプロジェクトレベルのデータベースから特定した外資系工場の建設場所と操業開始時期のデータを使用した。特に、識別戦略として外資系工場の操業開始前後における工場周辺地域とその周縁部の人々の社会規範トレンドを比較する Staggered DiD 分析を用い、推定には [Callaway and Sant'Anna \(2021\)](#) が提唱する逆確率重み付け表現によるモデルを使用した。その結果、外資系工場の進出は周辺地域に男性優位思想を一時的に広めたほか、外国人に対する排外主義的態度を限定的に普及させたことが確認された。この結果は、FDI の受け入れが既存の社会規範を強化、ないしはリベラルな価値観を広めないことを示唆するものであり、FDI の誘致に伴ってジェンダー差別的規範や経済発展と親和性の欠く価値観の普及を是正する政策が求められる。